

◆死別の悲しみに向き合う◆

3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は、わが国観測史上最大規模の地震でした。大きな揺れとその後に襲った巨大津波によって、数多くの生命が奪われました。

宮城県南三陸町防災対策庁舎2階危機管理課では、町職員遠藤未希さん(24)が防災無線のマイクから、「6メートルの津波が来ます」「退避してください」と必死に町民に呼びかけつづけました。



しかし、防災無線が30分も続いたころ、気象庁の第一報とは全く異なり、津波は16メートルにも及ぶ高さで庁舎に迫り、生存が確認された中に遠藤さんはいませんでした。南三陸町住民約1万8千人のうち、半数近くがこの防災無線を聞き避難して助かりましたが、遠藤さんは、尊い命と引きかえに職責を全うし、多くの同僚とともに津波の犠牲となりました。

震災直後から、龍谷大学では南三陸町に入り、遠藤さんご遺族をはじめ多くの被災者に寄り添い、心の支援活動を行っています。やがて、その活動は、2014年に設立された実践真宗学研究科「臨床宗教師研修」へと発展しました。



南三陸町立入谷小学校にて被災者と共に合掌し追悼 2011/4/9

愛するものを失い、自己を喪失していく悲しみの中で、「なぜこのような目にあわなければならないのか」「生きる意味はどこにあるのだろう」と人はうずくまる。病院や被災地で、誰にも代わってもらえない一人ひとりの苦悩に向き合い、その人の価値観、宗教性を尊重して、一生懸命にいのちを生きる道とともに探す宗教者、その人を臨床宗教師と呼ぶ。

『臨床宗教師の理念－その誕生と特色』(鍋島直樹)より

人は思いもかけない災害や事故、病気や死別に遭遇し、その日を生きていくことさえ困難することがある。災害直後、救援を求める人々に、医師、看護師、警察、消防隊、町職員、自衛隊とともに、僧侶や神父、牧師などの宗教者もボランティアとして被災地に赴いた。臨床宗教師研修は、人々の悲しみや無念さに寄り添いつづけた宗教者たちの伝統と臨床経験から誕生した。



故遠藤未希さん宅でご遺族と共に 2011/10/10

鍋島直樹先生略歴



1959年、兵庫県生まれ

龍谷大学大学院研究科博士課程単位取得満期退学(文学修士)

現在 龍谷大学文学部真宗学科教授 実践真宗学研究科・臨床宗教師研修主任

『死別の悲しみと生きる』(本願寺出版社)、『アジャセ王の救い』(方丈堂)、
『親鸞の生命観 縁起の生命倫理』(法蔵館)、『生死を超える絆 親鸞思想とビハーラ活動』(方丈堂) など
Encyclopedia of Science and Religion, Macmillan Reference, New York, 2003
日本医師会生命倫理懇談会委員

【問い合わせ先】大阪府立中央図書館総務企画課

〒577-0011 東大阪市荒本北1丁目2番1号

TEL 06-6745-0170 / FAX 06-6745-0262